



DATA

飛騨古川ユースホステル

〒509-4272 岐阜県飛騨市古川町信包180
電話: 0577-75-2979 URL: <https://hida-furukawa-yh.localinfo.jp/>

白壁の土蔵が立ち並ぶ「白壁土蔵街」があるJR飛騨古川駅から車で10分ほど。最寄りの飛騨細江駅から徒歩15分ほどの場所にあるコテージ風のユースホステル。ウィンタースポーツ好きな方はもちろん、観光を楽しみたい方にもぴったりの場所だ。

古い街並みが色濃く残るエリアにあるユースホステルは、ガイドブックに掲載されない本当の街の魅力を提供してくれる場所だった。

スケジュールを決めすぎない、余白を楽しむ旅を

Youth Hostel
Pick Up

飛騨古川
ユースホステル



歴史を感じながら四季折々の変化を 魅せる飛騨高山の奥座敷

出格子の家屋と白壁の土蔵、袂を静かに流れる瀬戸川を色鮮やかな鯉が悠々と泳ぐ。岐阜県飛騨市古川町は飛騨高山の奥座敷とも呼ばれ、メインストリートの白壁土蔵街(しらかべどぞうがい)には日本の原風景にタイムスリップしたかのような古い街並みが残っている。およそ500mほどのこじんまりとした通りだが、こだわりのカフェやレストラン、博物館や土産物店が揃い、浴衣や着物をレンタルして風景に溶け込む街歩きも楽しい。そんな情緒あふれる美しい街、飛騨古川の中心地から車で10分ほどの所に飛騨古川ユースホステルがある。

「飛騨古川のスキー場にあったヒュッテ(山小屋)を改装してユースホステルを開業したのが40年ほど前。その後この建物に移転して30年になります」。こう説明してくれたのはマネージャーの大田利正さん。山口県出身の大田さんに飛騨古川をユースホステル開業の地に選んだ理由を尋ねると「僕はスキーが好きなので、雪質が素晴らしいスキー場が近くにあったことが理由の一つですね。でも何よりここに住む人が魅力的だったことが一番の大きいかもしれません」。そう笑顔で答えてくれた。



PROFILE

大田 利正

山口県出身。旅好きが高じて、日本各所を10年かけて渡り住む。飛騨古川で「ひだ古川ユースホステル」を10年運営後移転。その後「飛騨古川ユースホステル」を30年運営し現在に至る。ユースホステル運営以外にも「ワンダーガイド飛騨」「神岡トマソン学会」「おっちゃんレンタル」など様々な顔を持つ。

旅好きから旅行者をもてなす側への転身

自身の事を「異端児」と言う大田さんは、根っからの旅好きだった。学生時代は北海道の釧路と根室の中間にある根釧原野(こんせんげんや)の開拓農家で2ヶ月間アルバイトをしていたことも。当初大田さん含め20人程いたアルバイトが、3日過ぎたら大田さんだけになっていた。「仕事は大変だったけど楽しかったし、その時は牧場のオーナーになりたかったんです(笑)。当時はやりたい事をそのまま実行する、そんな学生でしたね」。大学中退後は日本各地を転々とする生活も送っていた。「ガイドブックは参考程度に、メインの通りから一本路地に入った街の裏側を巡る旅が好きでした」。その頃の旅で利用していたのが各地のユースホステルだった。草津でスキーをしていた時に骨折をし、回復するのを待ちながら当時宿泊していたユースホステルの手伝いもした。その時に感じたのがゲストを迎え入れる側の楽しみだった。「ホテルや旅館と違う、家族のような雰囲気があったんです。ペアレント(マネージャー)もゲストも同年代だったということもあるんですけど、気さくに話せてすごく楽しかった。この経験があって、自分でもユースホステルを運営する側に回りたくなったんです」。その後日本ユースホステル協会に3年程勤務し、飛騨古川でユースホステルを開業したのだ。「ユースホステルでゲストと交換する情報は私にとって本当に貴重です。今私が関わっている事の大半はゲストの情報からだったりもします。ここ飛騨古川でユースホステルを始めようと決めたのも、長野のユースホステルに宿泊していた時に、他のゲストからもらった飛騨古川のパンフレットがきっかけなんです」。



見方を変えると街の魅力は無限大に広がる



大田さんを飛騨古川に惹きつけたパンフレットは、「古い街並みとその街中を鯉が泳いでいる」というシンプルなものだった。実際これを目当てに訪れる観光客も多いが、地元ツアーガイドとしての顔も持つ大田さんは一味違った飛騨古川の楽しみ方を提案している。「ガイドブックに載らないようなマニアックなツアーをやっているんです。先日飛騨古川の古い街並みや、白壁土蔵街を一切回らないツアーをやりましたよ(笑)」。大田さんのツアーの魅力は、飛騨古川に暮らす人とゲストとの「出会い」だ。「ガイドって究極喋らなくても良いとも思っています(笑)。風景を見るのもいいけど、旅先での出会いって余韻の長い旅の思い出になると思うんです。「またあの人に会いたい」って次の旅のきっかけにもなる。「このツアーで大切にしているのはゲストと一緒に発見して楽しむ事」と大田さんは続ける。「面白いものって、見方を変えると無限にあるんですよ。古い看板だってそう、不思議な建築物だってそう、面白い事をしている人もそう。一緒に道を歩いていると僕が気づかなかった発見をゲストがしてくれることがたくさんある。それがガイドとしての財産になっていくんです」。地域を巻き込んだ大田さんのガイドは市でも評判となり、「おっちゃんレンタル」としてふるさと納税の返礼品に組み込まれた。



「隣の神岡という場所も面白くて、ここにはある物の元祖があるんですよ」と笑顔で教えてくれたのが「ガッタンゴー」という自転車の動力で廃線を走るアクティビティ。街中を走るコースや、雄大な渓谷を走れるコースもあり、年間5万人もの人々が利用する程の人気で、大田さんもスタッフとして関わっている。現在は様々な地域が「ガッタンゴー」を地域活性化のお手本として同様の取り組みを始めている。

旅の醍醐味は「自分の知らない世界を知れる」ことそのための楽しさを提供したい



大田さんのガイドツアーと並んで人気なのがテレマークスキーレッスン。テレマークスキーはつま先だけを固定し、踵を浮かせて滑るスキーのスタイルで、自由度が高い分通常のアルペンスキーより難しいとされている。「一般的なスキーと比べてマイナーではあるけれど、ターンができるようになると本当に楽しくてやめられなくなるんです」。太田さんのテレマークスキーレッスンは、マンツーマン形式で1人1泊から受付可能。まずはやってみたいという方におすすめだ。抜群の雪質と豊富なコースレイアウトを兼ね備えたグレンデがある飛騨古川は、ウィンタースポーツの愛好家にも人気が高い。飛騨古川ユース hostel もシーズンになると国内外からスノースポーツを楽しみにゲストが集う。館内は床暖房が完備され、スキーやスノーボードの乾燥室もある。暖炉のあるダイニングスペースには夜長に嬉しい漫画や書籍もあり、滞在中もゆっくりとくつろげる。このダイニングスペースは、朝になるとカフェ「nanuk(ナヌク)」としてオープンするのも面白い。カウンターでゆっくりとカフェを楽しむこともできるし、しっかりとした食事をとることもできる。

「ユース hostel にお泊まりいただく方には様々な角度で旅を楽しんでもらいたいです。だからあえてスケジュールを組まないで来て頂いても大丈夫。余白の分だけこのエリアの面白さをお伝えできると思います」。長年住む飛騨古川の魅力を知るとこう続けてくれた。「やっぱり人ですね。ガイドをやることで特にそこに気づかされました。ここは飛騨高山の奥座敷と称されることがありますが、そのもつと奥、裏側に本当の魅力があります。その魅力を多くの人に感じ取って欲しいと思っています」。

「旅の醍醐味は、自分の知らない世界を知れることだと思います。知らない人と会う旅もあれば、自分自身の知らなかった面を発見する旅もあります。僕がやっているガイドも、参加していただくゲストに、今まで体験していない世界を提供できるようにという想いでやっているんです」。最後に旅の醍醐味を大田さんに聞くと嬉しそうにこう答えてくれた。自分が面白いと思ったことはとことんやり抜く大田さんは、これからもやりたいことがたくさんある。大田さんの言葉を聞いて、スケジュールを決めない余白を大事にした旅をしたくなった。

1. 使用したスキーやスノーボードの板を、じっくり乾燥してくれる部屋が完備されている。水分が残っている状態だと板に悪影響を与えるので、ウィンタースポーツ好きのゲストには嬉しい設備だ。
- 2,3. 温かみと清潔感がある部屋は様々なタイプが用意されている。館内は床下暖房が完備されているので、寒い冬も快適に過ごせる



MAP
A 壱之町珈琲店



古民家を改装した落ち着いた店内にはジャズが流れ、ゆったりとした時間を満喫できる。オープン当初から提供し続ける飛騨牛カレーは、クリームのおみやも合わせり優しい味わいで、地元飛騨産のツツヤヤしたお米との相性抜群。

岐阜県飛騨市
古川町壱之町1-12
TEL:0577-73-7099



MAP
B 御菓子所田の下



創業70年を誇る地元で愛され続ける和菓子屋。定番から季節を感じる和菓子が並ぶ。お土産で和菓子を持ち帰るのも良いが併設されている「茶房 月ヶ瀬」で抹茶やコーヒーと一緒に和菓子を楽しむのもおすすめ。

岐阜県飛騨市
古川町幸栄町8-21
TEL:0577-73-5668



MAP
C 蕎麦正なかや



飛騨の蕎麦粉を使用し、毎日手打ちで提供される蕎麦は喉越しが楽しい。名物「エゴマ蕎麦」に添えられる地元のエゴマはすりつぶすとふわっと上品な匂いが香る。こだわりの出汁が効いたつゆも味わい深い。

岐阜県飛騨市
古川町三之町1-16
TEL:0577-73-2859



MAP
D 飛騨古川さくら物産館



地元の工芸品やお土産も揃う場所で、大豆を揚げた「豆つけ」は、甘みもあり一口食べると止まらなくなる逸品。これを目当てに県外から訪れる方も多し。丸台を使用した本格的な組みひも体験も人気。

岐阜県飛騨市
古川町三之町2-20
TEL:0577-73-7770

MAP
E 日根野美術館 & Cafe



価値ある調度品と日本庭園を和室で楽しみながら一息つけるカフェ。50年レシビズを変えていないベイクドチーズケーキは、驚くほど濃密で、口に入れるととろけていく逸品。ビンテージの器と一緒に目でも楽しめる贅沢な時間。

岐阜県飛騨市
古川町壱之町3-10
TEL:0577-73-6257

MAP
F FabCafe Hida



築100年以上の古民家を改装した建物では、飛騨の森をカフェやものづくりなどの様々なサービスを通じて楽しめる。森に自生する薬草「クロモジ」を採取して使用したミルクティーは、ほのかなスパイスさを感じる大人の味わい。

岐阜県飛騨市
古川町壱之町6-17
TEL:0577-57-7686

©Kawase Kazue

読者プレゼント

抽選で **ご宿泊券(1泊2日)ペア1組様にプレゼント!**

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから!

<http://www.jyh.or.jp/hm/> 応募期間: 2022年4月末日

※なお、当選発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.28
まとめてダウンロード



LiLiCoの映画で世界を旅しよう！…… P18



Cover Interview …… P02

樋口 日奈
思い切って踏み出した一歩で、
世界が一気に広がった。



おしえて！旅GIRL …………… P19



Youth Hostel Pick up …………… P08

飛騨古川ユースホステル
スケジュールを決めすぎない、余白を楽しむ旅を



松島むうの晴れときどき旅びより …… P20



Hostelling Magazine x 地球の歩き方 … P12

そろそろ旅の準備を始めよう！
台湾



YOUTH HOSTEL LIST …………… P22



Sustainable Tourism …………… P16

発行所：一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島眞
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌の情報は2022年2月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。